2024 年 6 月 18 日

令和 5 年度第 1 回　海岸工学委員会　委員会議事録

開催日時: 2024 年 6 月 18 日(火) 14:00-17:07 終了
開催場所: オンサイト(ビジョンセンター東京八重洲(904 号室))
およびWeb(ZOOM)によるハイブリッド会議
出席者: [オンサイト]岡安相談役, 森委員長, 渡部副委員長, 北野幹事長, 秋山, 荒木, 有川, 内山, 小野, 加藤, 川崎, 木原, 鴫原, 下園, 鈴木, 高川, 西畑, 松木, 山中. [Web]柴山相談役, 入江, 岩前, 五十里, 楳田, 遠藤, 大井, 小野, 織田, 加藤, 柿沼, 久保田, 越村, 田島, 中下, 中村, 原田, 比嘉, 保坂, 宮本, 宮武, 山中, 山城, 渡辺.
議事録:馬込, 北野
退任挨拶:柴山相談役(中央大学), (シンガポールから)相談役退任の挨拶がなされた.
開催挨拶:森委員長より委員会開催の挨拶がなされた.
委員交代等の報告:出版委員会　西畑委員→比嘉委員, 論説委員会　渡部委員を選出

１）前回議事録の確認(WEB 公開済)
２）第 70 回海岸工学講演会＆ APAC の開催報告:原田委員より, 2023 年 11 月 15～17 日に京都で開催された第 70 回海岸工学講演会とAPAC の開催報告がなされた.
参加者数:海岸工学講演会 784 名, 企画セッション1(水理模型実験における地盤材料の取り扱い方法に関する研究小委員会):149 名, 企画セッション 2(沿岸災害デジタルツインの構築と活用に向けて):227 名, 企画セッション 3(関連学会における沿岸域研究の動向と展望):49 名, APAC2023:290 名(日本 152 名, 中国 89 名, 韓国 36 名他)

３）第 71 回海岸工学講演会論文審査:
論文発表審査:山城委員より, 2024 年度土木学会論文集特集号(海岸工学)について報告があった. 登録論文数 290 編(和文 270, 英文 20), 査読者割当(主査 26 名, 副査 85 名). 今年から要旨のみで審査し(海岸工学にふさわしくないという理由で 1 件のみ不採択), 本論文は, しっかりと査読による審査で, EM という新しい審査システムをつかうものの, 審査内容は従来どおりである.
講演要旨審査
・論文 ID 通知メールが届かず, 二重投稿や三重投稿のトラブル(原因は, 新規と更新の両方がカウントされ, 投稿が最終日に集中し, エラーが発生した. 新規のみに変更するなどの改善が必要)
・概要の文字数が Word 上と Google フォームでカウント方法が異なり, Word では問題なくても Google フォームでエラーが出るトラブル.
Jstage 論文審査(現時点で, Accept12 編,Revice167 編,Reject6 編):
・論文 ID をタイトルの前に記載いただくことで, アサインなどシステム上での処理が効率化できた(なお, ID 未記載の場合は, アサイン前に返却して, 著者には再投稿していただく対応をした).

・Google フォームの未入力トラブル対応.
・新規性等の点数や査読点数(A,B,C)の未入力トラブル対応.
・査読結果の入力ミス別の論文の査読結果がペーストされるトラブル対応.
・主査が担当する査読総括を作成中に, 自身が投稿した論文の査読結果が返ってくると, 修正期間を消耗する. 査読担当数ならびに著者としての投稿数が多い場合は, 対応が厳しくなる問題.
・主査で 10 本以上査読している方もおられ, 査読者増員が急務.
・幹事長より, 著者負担金の値上げの必要性と, 投稿数の推移(近年著しく減少傾向にあったが, 今年度は急増)について報告があり, 今後さらに増えると, 今後の講演会での発表時間などを検討する必要がある(これについては, 9月の幹事会で検討する)ことを報告した.
・Editorial Manager(以下, EM)導入, Jstage 論文アップロードなどで, 著者負担金の値上げ(これまでから容認されている上限4万円)の可能性あり.
・査読担当数のヒストグラムの紹介(最大 13 本/人, 最頻 3 本/人).
・内山委員　主査が EM で記入する箇所がわかりにくく, フォーマット記載の必要を感じた.
渡部委員　Google フォームと EM のハイブリッドで問題が生じている部分が多いので, EM だけで受け付けられるように変更できないか？
・投稿者ならびに査読者(主査, 副査)に, 7月下旬～8月にかけて, 特命 WG からアンケート予定.
・幹事長　EM で受け付けると, 発表者のみの場合も, EM 使用料の金額がかかる. しかも, EM は導入当初の予定の必要経費よりも(知らぬ間に)高くなっている(210 篇で 70 万円超となり, 手間は増えた上に, セキュリティ対策とはいえ, その費用が, これまでのシステムの 50 万円を上回っている). 規模の小さい他の委員会では, 安くなっているところもある可能性がある.
・森委員長　水工学の特別号論文査読では, EM がカスタマイズされて使いやすかった. 土木学会の提供する EM を使わない分, システム継続費や1編あたりの価格などの費用が余計にかかるものの, その分の価値があるかもしれない. 中期的に検討する必要はある(土木学会の方での使い勝手の対応もあるはずなので, 特に急いで結論を出すほどでも無いとは思う).

第 71 回海岸工学講演会の準備状況について：

渡辺委員より, 第 71 回の海岸工学講演会の準備状況について報告がなされた. 2024 年 11 月 6～8 日に, 秋田市のアトリオンで実施決定. 懇親会は ANA クラウンプラザホテル.
秋田市に助成対象であることを確認. 国交省から後援と見学(秋田港と洋上風力施設)の許可, 秋田県と秋田市から後援の許可. 見学会では, 大型バスと船の用意.
前日 11 月 5 日(火)のシンポの案内の企画セッションは 13 時半／14 時～16 時まで, となる予定.

第 72 回海岸工学講演会の準備状況について：

中下委員と山中委員より, 第 72 回海岸工学講演会の準備状況について報告がなされた. 2025 年 11 月 25～28 日に高松市で実施(懇親会は 27 日に JR ホテルクレメント高松で実施).
やや懸念である点は, 第5会場は初日と2日目のみの使用(3日目は別の団体の予約あり)

実行委員会の構成は，香川大，徳島大，愛媛大，高知工科大，四国地方整備局，呉高専で検討中．西部・中部から 1 名ずつ実行委員会に参画依頼検討中（西部は幹事の山城委員が，中部は幹事の北野委員が検討中）．252～294 件の発表で，予算 163 万円で検討中．会場係に四国の学生，発表予定の全国の学生にアルバイト予定．受付係は四国地方整備局や人材派遣会社に依頼を検討中（海洋開発の実行委員に確認したところ，遠隔地からの学生アルバイトは交通費や宿泊費がかかるので同程度）．実行委員就任にあたって，委任状は土木学会事務局 那須さんが対応．また，補助金も検討中で，高松市から最大 50 万円獲得できる可能性がある．
幹事長：今年は投稿数が 300 件近くに急増しているので，来年さらに投稿数が増えて，発表件数が増える可能性を思うと，多くの発表数を確保するには，発表時間の変更等の検討が必要になる．
委員長：発表可能件数の算定方法は？
中下委員・山中委員：　8時半からの開始，終了を17時半などの発表時間帯を若干拡張すると，少し余裕があると思うが，もう一度確認する．

第 59 回水工学に関する夏期研修会開催について：
遠藤委員より，第 59 回の水工学に関する夏期研究会の開催準備について報告があった．2024 年 8 月 29～30 日に大阪公立大学で実施予定（A コース 120 名，B コース 120 名）．A コース（水工学），B コース（海岸工学）のプログラムについても決定した．今回は海岸工学が主担当．

第 60 回水工学に関する夏期研修会開催について：
山城委員より，第 60 回の水工学に関する夏期研究会の開催について報告があった．2025 年 8 月末頃に福岡市で，対面とオンデマンドのハイブリッド開催を予定．全体テーマは，4月から変更になったのか，水工学におけるパラダイムシフトとしているが，招待講演者の専門等を考慮して，気候変動関係や AI なども含めることも水工学担当者に提案することを検討中．

Coastal Engineering Journal について：
内山委員より，CEJ の前回報告からの変更点と受賞者候補について報告され，承認された．
・近畿大学の高畠先生が委員に追加
・インパクトファクターは 3.289 から 2.4 に低下（デジタルコンテンツ重視導入効果の期限切れ）
・3 月に Vol.66（全 12 編で本論文は 11 篇）発行
・次回は 2025 年 3 月発行予定．現在投稿 16 編で順調に進行中．
・2026 年は能登津波など速報性の高いものも含め，投稿のお願い（現在 2 編投稿）．
・近年の投稿数は 108～161 編で増加傾向（2024 年は現在 94 編）．中国，アフリカ，東南アジアなどを中心に日本以外が増えている．
・表彰者の決定
　Coastal Engineering Journal Award 2023
　Takumi Tazaki, Eiji Harada & Hitoshi Gotoh: “Grain-scale investigation of swash zone

sediment transport on a gravel beach using DEM-MPS coupled scheme”
CEJ Citation Award 2023
Yuma Shimizu, Abbas Khayyer, Hitoshi Gotoh & Ken Nagashima: “An enhanced multiphase ISPH-based method for accurate modeling of oil spill”
JAMSTEC 中西賞:
Takumi Tazaki, Eiji Harada & Hitoshi Gotoh: “Grain-scale investigation of swash zone sediment transport on a gravel beach using DEM-MPS coupled scheme” を推薦する.
査読者賞(年間 4～10 編の査読):京大の Shimura 先生他合計 9 名
通算 3 回まで受賞可とすることを決定した(今年度で3回目となる方がおられますので).

・約 170 万円の印税振込の報告. 今後に有効な利用を考える.
・Editor に相談なく論文構成を変更するなどの問題があったので厳しく対処した.
有川委員からの質問:Q1 だと大学から補助が出ることがあるが CEJ は? →回答: Q2
森委員長 賞を 3 回受賞した先生にも今後も査読を依頼するのか? →回答:もちろん, 依頼する.
幹事長 今回の委員会で承認されたので, 講演会に向けて盾と表彰状を作成することとする.

■広報・出版・WEB 開催小委員会:
鴫原委員より広報・出版・Web 開催小委員会について報告された.
・比嘉副小委員長, Anawat 委員が任命され, 安田副委員長, 鈴木委員, Bricker 委員が退任した.
・広報関連として, Web 情報の充実を進めている(海岸工学論文集データベースは検索速度が速いが, 登録の負担が大きいので, J-Stage で検索できることも考慮し, 縮小・廃止予定).
・出版関連として, プログラム・DVD(2024)を作成の準備をする.
・論文集の USB メモリの販売はなし.
高川委員からの意見: 海岸工学論文集データベースを提供できる間は, 検索可能な対象となる論文集の発行年を表示した方が良い.

沿岸域研究連携推進小委員会:
遠藤委員より, 今年度の夏期研修会にも講師として, 小委員会メンバーが登壇するなど活動しているが, 今回は特に報告することはない(昨年の前日シンポ開催にて, 委員会活動のまとめを報告).

研究小委員会, 研究会, WG の活動について(事前送付):
・沿岸まちづくりにおける経済学的手法検討小委員会(安田委員) 所用の欠席のため報告略.
・沿岸災害デジタルツイン研究小委員会(越村委員)
61 名の参加で, ワーキンググループ活動を進めている.
2023 年に土木学会重点研究課題として報告書が発刊されている.
・波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会／沿岸域における気候変動

適応策に関する研究会／波動モデル研究会／地域研究活性化 WG については，事前送付のみ．

■その他

・サーバーセキュリティ対策特命 WG（川崎）

海岸工学メーリングリストの CECOM の登録方法の説明を追加．

今後は HP のシステムのアップデートを行いつつ，運用手引の作成や管理・運用体制を確認ならびに整備し，広報・出版・WEB 開催小委員会に引き継ぐ準備を行う．

・土論・編集調整会議からの報告・土木学会委員会の議事録の情報共有（山城）

XML ファイル作成について，著者負担金が 2000 円から 3500 円に変更（増加）．

特集号 EM の利用料は 1 投稿あたり 3400 円に変更（増加）．

特集号が「ESCI の規定に沿った運用を重視」と記載されており，今後の方針として 3 案が提示されており，詳しい具体的な対応は不明だが，来月の次回編集調整会議が予定．

他の委員会で，Jstage 掲載作業で，他山の石とすべきトラブルがあった（教訓とする）．

渡部委員　EM の値上がりの理由は？

山城委員（回答）J-Stage は何かの経費が上がったからというわけではなく，ただの価格の改定．EM は前年度の投稿数（特別号全体）の多寡に依存して割引が設定．また，初年度導入時が安かっただけの可能性がある．今回提示した内容以外の具体的な資料はなかった．

・海岸工学論文投稿査読新システム検討特命 WG（北野）

次年度以降の海岸工学論文投稿料について，下記のような様々な意見・質問が出た．

費用の内訳の公開の是非（公開することで説明しにくくなることもあり，どこまで公開するかも難しい）

一般企業等が投稿を控える可能性もある．

値下がりの部分についても説明すべき．

研究所では，費用の変動があった場合に，事務に納得できる説明が必要．

会場費は会場が決まってからでないと分からない．どの会場を選ぶかということとセットで考えて，会場費のレンジを決めて，見通しを良くした方が良い．

投稿料だけを上乗せするのではなく，参加費で徴収した方が公平ではないか？ → 原稿を出している人と，参加している人がほとんど同じという事情もあるので，トータル収益を考えた方が良い．

学会のハイブリッド開催で経費節減できないか？

幹事長：変動はなるべく小さくなるよう調整中．コロナに伴うハイブリッドは終了したが，発表者数の増加との兼ね合いで，今後検討要となるかもしれない．ただし，ハイブリッドは，広報・出版・WEB 開催小委員会ならびに有志の方の負担が増える問題もある．

・海岸工学2040特命 WG（渡部）

渡部委員より，海岸工学2040特命 WG の活動内容について報告がなされた．これからの海岸工学のフロンティアを意見収集するなど，学会が考える今後の研究の方向性について検討中．

岡安相談役： 目的関数（世の中の役に立つ，会員数を増やすなど）を決めると，それを最大にするように議論しやすい．渡部委員（回答）：今研究されていないもので，今後研究が必要なものを目指しており，意見聴取の間口を広げている側面がある．

・省庁連携特命 WG（田島）

田島委員により，省庁連携特命 WG の活動内容について報告がなされた．年 5～6 回夕方，官学民の懇談会の開催を計画中．第一回は国交省で実施．オンラインを基本に年 1～2 回はハイブリッドの予定．

有川委員：どこで実施するのか？→ 回答（田島委員）：第一回は霞が関（国交省）で実施予定

・第4回日中土木学会ジョイントシンポジウム

幹事長より，第4回日中土木学会ジョイントシンポジウムの計画について報告がなされた．中国から提案は，今年2月以降，新しい情報はない．これまでも何度も計画が変わっているので，このとおりで開催されるものか，心配している．事務局からの連絡次第，メーリングリストで案内する．

・ICCE（森）

森委員長より，2028 年開催の ICCE のプロポーザルについて報告がなされた．2028年の ICCE 開催を大阪開催で立候補した．1000人で参加料10万円（1億円のイベント）．合計3件エントリーがあり，アテネとカンクン（メキシコ）も立候補予定．早くて7月，遅くとも今年9月に決定．

以上